

女性のがん予防と学校教育

がん社会 を診る

中川 恵一

ります。「がん社会」の到来です。

国も職場でのがん対策に力を入れていきます。「がん対策推進企業アクション」は企業でのがん対策を進める厚生労働省の国家プロジェクトです。09年に発足し、私が15年間議長を務めています。公式サイトも充実していますので、「企業アクション」で検索してみてください。

企業アクションでは、2023年10月の秋田セミナーに

続き、12月1日に高松市でセミナーを開催しました。

秋田では佐竹敬久知事にトークセッションにも参加頂きましたが、高松では池田豊人知事にご挨拶を頂きました。旧知の谷川俊博・宇多津町長もかけつけてくれました。

宇多津は瀬戸内海に面した風光明媚(めいび)な小さな町で、公立の中学校は一つしかありません。私は10年前から、この宇多津中学の生徒にがん教育を行ってきました。

がん教育を受けた生徒が親にがん検診の受診を勧めていることが私の調査からも分かっています。実際、宇多津町でがん教育を開始した13年から、町民のがん検診受診率が上昇していることが確認されています。

トークセッションも行いました。

まず、主婦層にどうやってがん検診を受けてもらうかが話題になりました。私は宇多津での実例を紹介し、子供たちが親世代に受診を促すのがよいと勧めました。中学の保健体育の教科書にも「身近な大人に向けて、がんに対してどのように行動すればよいか」アドバイスを考えてみよう」という記述があります。

子宮頸がんについても話題に上りました。このがんは性交渉に伴うウイルス感染が発症原因のほぼ100%を占めるため、30代後半にピークがあり、検診は二十歳から受ける必要があります。

しかし、20代前半の受診率は15%程度と低迷しています。私は高校の卒業式や成人式の中で受診を呼びかけるべきだと提案しました。

子宮頸がんの治療と後遺症の問題については別の機会に取り上げたいと思います。

55歳までにがんになる確率は、男性は5%もありませんが、女性は男性の約2倍の9%です。乳がんと子宮頸(けい)がんが若い世代に多いためです。女性が仕事に就けば、職場に若いがん患者が増えます。男性の場合、がんは一種の老化と言えますから、年齢とともに罹患(りかん)率は急増します。定年の延長により高齢の男性がん患者が職場に増えることとなります。

女性の就労と定年の延長は働くがん患者を増やすことな

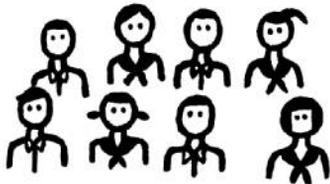


イラスト 中村 久美

高松セミナーでは香川県庁のがん対策部局や地元企業、子宮頸がんの経験者も交えて

(東京大学特任教授)